いま創造のとき！

（私たち一人ひとりの力で）

わたしたちの故郷、妙高
生活の要…信越本線

妙高と信越本線を考える会
設立総会

日時　5月25日（日）18:00～
会場　妙高高原ふれあい会館 2F大広間

地域の生命線である信越本線、
この大事な鉄路を
子・孫の代まで残すのは、大人の責任

新幹線開通で三セクとなり、
優等列車もなく閑散とした小諸駅前

ご近所お誘いあわせのうえ、多数ご来場ください！

（仮称）妙高と信越本線を考える会
代表　岡山　紘一郎

趣意書

私からあなたに、あなたからあのひとへ!

かけがえのない私達の故郷、妙高と信越本線をみんなで守ろう!

私達の足としての信越本線は、新潟県の中で最も古い、1886年８月に直江津～関山の開通に始まりました。それ以来120年の長きにわたり関東・中京・関西と人的、物流の中心となり地域の発展と文化の興隆に寄与してきました。その信越本線がいま重大な岐路に立たされています。

2014年度末に北陸新幹線が長野から金沢まで延長運転されることになっています。それは新幹線を建設するにあたりその条件として在来線である信越本線が新幹線と並行でも何でもないのに、並行在来線としてＪＲから経営分離されて第三セクターに経営移譲される予定になっているからです。

新幹線が延長運転されることにより、東京・大阪などが近くなり便利になるといった期待とともに三セク後、信越線の存続や地域経済に与える影響、地域イメージにマイナスになるのではないか、といった不安が交錯しています。

それは

- 今後経営の主体となる「県」が最後まで責任を持って経営に参加するのか
- 経営の見通し、県民・市民の負担はどうか
- 一地域の鉄道会社がＪＲでも経営できない鉄路を運営していけるか

などなど解明しなければならない疑問が残ります。

経営分離された先行例では経営状態が厳しく、運賃を大幅値上げしたり、自治体財政を圧迫した上に廃線に追い込まれた例もあります。

また新幹線がただ通過するだけの地域では今まで駅前だった地域がシャッター通りになってしまい、こんなはずではなかった！と悔やむ声も大きくなっているところも多くあります。

私達は新幹線そのものについて反対しているものではありません。その地域の地理的条件や住民合意もなしに一方的に進めるのではなく、車社会の今日、鉄道の優位性をあきらかにしつつ、その地域にあった鉄道のありかたを創り上げていく必要があるのではないでしょうか？

先行地の失敗例・成功例をつぶさに研究し、新幹線と共存できる信越線にしていくために、立場を超えて多くの人と国・県・ＪＲにむけて私達の思い、皆さんの願いを届け要請していきたいと思います。

沿線住民の皆さん！多くの信越本線を愛する皆さん！

私達の何としても信越本線を「地域の足、地域づくりの要」にしていくというこの思いに賛同し、一緒にこの運動に参加していただけたら、と思うとともに周りの人たちにもこの思いを、お伝えすることを願ってやみません。多くの賛同者の皆さんの声を背景に、行政にただ頼るだけでなく自ら全体のものとして運動を進めます。

現在、各地の運動の反映により、九州新幹線長崎ルートの並行在来線はＪＲが直接運行することが決まり、長野・新潟両県知事の会談、12道府県知事の要請など政府、与党合意の見直しを求める声が強まっています。

今後、私達の運動いかんによっては、新たな展望を開くことが出来る、といえます。

以上の考えから、私達はここに「妙高と信越本線を考える会」を結成し、今後沿線住民やあらゆる人たちと固く手を結んで、幅広い運動を展開していくものです。

在来線を守る三市連絡会
大平 淑正
上越市高住949-1
TEL 025-546-2278